

平成23年度 教育研究交流委員会 国際交流事業 ハルリム大学訪問による国際交流

教育研究交流委員会：畠田 理佳、金子 典代、市川 誠一、香月 富士日

教育研究交流委員会では委員会活動の一環として国際交流の拡大を模索してきた。この度、大韓民国ハルリム大学医学部看護学科との学部間協定の実現に向けてハルリム大学を訪問して視察および協議を行ってきたので、その内容を報告する。

I. ハルリム大学医学部看護学科との国際交流に至る経緯

2009年に実施した「留学、国際交流に関するニーズ調査」の結果、本学の看護学部生の国際交流へのニーズが高いことが明らかとなっていた。アジア諸国への短期留学、現地の医療事情の視察、現地学生との交流や情報交換、講義受講等を希望する学生も多いことがわかった。国際交流が可能な相手大学を考えるのにあたって、全く縁故がない新規の大学では現実的に困難な面があることが予想されたため、すでに大学間での学術交流協定が締結されているハルリム大学医学部看護学科との教員・大学院生・大学学部生間交流の実現を図ることとなった。

II. 名古屋市立大学とハルリム大学との国際交流の実績

医学部、人文社会学部では学部生間の交換留学を実施しており、毎年2名程度の学生が単位互換制度を利用して韓国へ渡り、ハルリム大学側の学生も来日している。2007年には本学医学部附属大学病院がハルリム大学附属病院より看護師2名を短期間研修で受け入れた実績がある。看護学部では実績がない。

III. ハルリム大学との国際交流の目標

教育研究交流委員会では交流の実現を図るため下記の通り、下記の通り、国際交流の目標を設定し、これをハルリム大学側にも伝えることとした。

1) 学部生、大学院生間の国際交流

- ①交流を通して学生が韓国の看護、医療、保健事情を学び、グローバルな視点で健康問題を捉える力を付けることができる
- ②異文化コミュニケーション能力を向上させることができる

2) 教員間の国際交流

- ①国際的な看護教育内容の拡大・充実を実現することができる
- ②研究に関するディスカッションや共同研究等ができる

この目標に向けて、まず短期的に今後の交流の可能性について意見交換をしながら相互理解を深め、将来的には教員間の研究交流、学生の短期研修や単位互換など交換プログラムへ発展させていくように計画していくこととした。

IV. ハルリム大学の概要

ハルリム大学（翰(ハル)林(リム)大学校、英称：Hallym University）は大韓民国江原道春川市に1982年に設置された私立大学である。春川（チュンチョン）はソウル市内から北東83.6kmに位置する江原道（カンウォンド）の中心都市である。ソウル市内から急行電車で約1時間の距離であるが、山や湖など豊かな自然に恵まれており、スキーや登山などのレジャーが盛んで大学サークルの合宿地としても以前から有名なところである。春川は現在の韓流ブームを起す先駆けとなった有名テレビドラマのロケ地として知られ、日本人を含む国内外から多数の観光客が集まる韓国内有数の観光地でもある。大学まで案内してくれた女性が道中で「ここはドラマの主人公が交通事故に遭った場面に使われた交差点です」と教えてくれた。残念ながら今回の訪韓メンバーは全員その筋の話に疎かったのだが、非常に有名な場所のようであった。市内は日本の地方都市と似た賑わいであった。大学関係者の話では春川は治安が非常によく、安心して暮らすことができる街だということであった。

ハルリム大学には文学、社会科学、経営学、自然科学、情報電子工学、医学などの学部があり、看護学科も医学部に設置されている。また、大学院もあり、人文社会、自然科学、工学、体育学、医学、経営、臨床看護などの分野がある。

国際交流が盛んで、世界37カ国・地域にある167大学との間に学術交流協定を結んでいる。日本でも名古屋市立大学を含む13の大学の大学と学術交流を行っている。

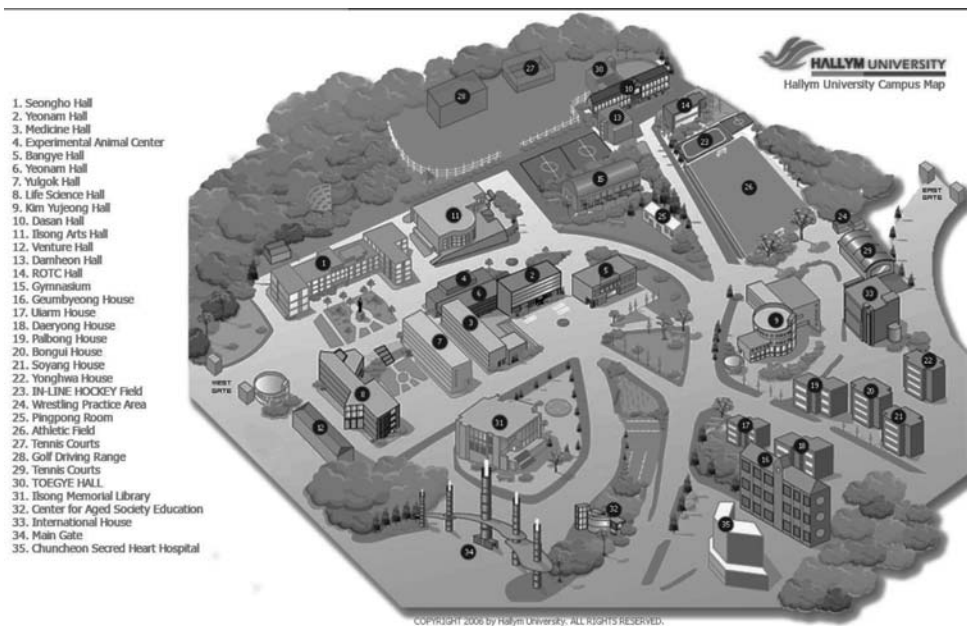


図1 ハルリム大学のキャンパスマップ

V. 交流の実現に向けた準備

本学の国際交流センターの助言を得て、平成23年6月に医学部長Yong-Sun Kim氏とコンタクトをとり、国際交流を希望する旨を伝えたところ、ぜひ前向きに検討すべき事案であり、看護学科長と連絡を取り協議を進めるとの返答があった。

平成23年9月、看護学科長Shin Jeong Kim氏より、学科としてもパートナーシップもつことに関して前向きに検討したいとの返答があった。

平成23年10月、看護学科長Shin Jeong Kim氏から実際に会って協議を行い、交流の方向性を探りたいとの申し入れを受けた。日程調整の結果、12月12日にハルリム大学医学部看護学科へ市川、金子、畠田が訪問することとなった。

VI. 訪問の概要

2011年12月12日（月）にハルリム大学を訪問した。

【スケジュール】

1. 参加者の自己紹介、意見交換
2. 本学側のプレゼンテーション
 - 1) 日本のヘルスプロモーションについて紹介（ハルリム大学側の依頼）
 - (1) Japanese public health policy on infectious diseases: Current status of HIV/AIDS epidemiology in Japan. (市川委員長)
 - (2) Health promotion in Japan: future challenges in world's fastest aging society. (金子委員)

- 2) 日本の看護教育・国家資格制度、本学看護学部・看護学研究科の構成、各領域の概要、学生の人数の紹介（畠田委員）
3. 交流に関する意見交換
4. 学内ツアー：図書館、看護学部棟の教室・実習室、看護学部・医学部共用スキルス・ラボの見学。

【意見交換の内容】

1. 学生間の交流について
 - 1) 相互交流による利益

国際社会で活躍できる人材の育成のために、学生が国際的な視野を広めることができるようなプログラムは重要である。また、日本と韓国の相互理解を深めるための国際交流という点でも交流を実現させたいということで一致した。
 - 2) 実現の可能性に関する協議
 - (1) カリキュラム

ハルリム大学では1年時に基礎科目、2年次・3年次に専門科目・4年次に実習ということであった。看護学部でも1・2年次に英語での授業を2名の教員が担当しているということであったので、その授業に参加できるとよい。今回はお互いのカリキュラムを照合して検討するまでには至らなかったが、新年度の本学のカリキュラムが確定する時期を見て具体的な検討に入ることとした。
 - (2) 資金

本学では大学から15万円程度の補助が出る。ハルリム大学では大学敷地内にある学生寮を日本人



写真1 ハルリム大学側教員との記念写真
(向かって左から5番目が看護学科長Shin Jeong Kim氏)



写真4 ハルリム大学図書館



写真2 市川委員長のプレゼンテーション



写真5 ハルリム大学病院



写真3 金子委員のプレゼンテーション



写真6 ハルリム大学病院の個室内部

学生用に提供できるとのことであった。女子学生が多いことから、本学に対して日本滞在中の安全面を考慮した宿泊施設の要望があった。

(3) 時期

学生間交流に関しては、ハルリム大学は1～3年生次がよいとのことであった。

2. 教員間の交流について

1) 研究分野

ハルリム大学側の教員の研究分野について概要説明があった。これに関する資料は別途後日提供されとのことであった。交流開始にあたっては、双方の大学の教員の研究領域の公開とマッチングが必要であるため、本学部側も準備を進めることを説明した。

2) 資金

2012年3月末までであれば、本学の短期招聘事業による韓国側教員の招聘が可能であり、これが最も早くに実現可能な交流である旨を伝えた。韓国では3月から新学年・新学期が始まるため、2月頃が調整しやすい時期との回答であった。

VII. 国際交流実現に向けた今後の課題

韓国での意見交換の結果、交流の実現に向けて次のような課題が明確になった。

1. 学生間の交流について

- 1) 授業に使用する言語とカリキュラム
- 2) 期間・単位取得
- 3) 本学に受け入れる際の宿泊施設の確保

2. 教員間の交流について

本学側の教員の研究紹介およびハルリム大学側の教員の研究との照合

委員会メンバーの帰国後、本学の短期招聘事業によって看護学科長Shin Jeong Kim氏が2012年3月に来日する予定となった。ここで交流についてさらに具体的な協議を行う。